



百番卷勺合
合



春之部

一五歳

万口早や〜〜〜日卒に
一五歳や〜〜〜目も〜〜〜其色所 蓮

若菜

けらな〜〜〜子成道〜〜〜花も操〜〜〜素丸
心玉の若菜とる〜〜〜種のみ宗瑞

梅

古寺や〜〜〜身も〜〜〜梅一本長
げ小公〜〜〜〜〜〜〜〜〜の毒

凡中

竹葉のやそふすのやまのふのり蓮
三日月山を殊りさる凡中素
お辰

父ハ仔良の肉をうすみり那奈
さねお路の口あくさるらに辰長

菽入

厚ふ入のらぬ和さあのり文さ竜 照

菽入り一物や付家のおる錦 素

嘗

嘗や極不自刺りかな 鹽 蓮

嘗の旨味ゆすげのあ 瓶 宗

白菓

白菓のりりぬきや後和種 素

志く魚や果をら鏡の箱は山 花

午

えんじもや神さるる時 所 續 宗

初午の大鼓はやくや夕月 照

柳

舟人の短舟かかれり柳の長
舟の目ら柳の似る木にば 蓮

蝶

乃きさるる蝶一風の蝶
池柳を月之けてはるる蝶 素

歌

猪の道とてえそをけぬるひ
温の山は標みしとて 歌

温祭

大橋のいそぎに
温祭今やとて終今宵の月の色 蓮

船子

さしのかん子代のはる引くは
大佛のりりるるは船子の夢 長

榮花

るのそらや川舟は定の家
榮花のそらや隣り細く 蓮

苗代

あまのついでにうらりり苗代田も
なわしるや 碇うらりしとせしむ

雛

あはれおしるをのふねうらり
思おしく道ておしるをのふね

送

い成屋や平しくえおるむの山
律院は吹し碇しおる

西云雀

目星原瑞しくあけ夕をむり
其まよひのえおる碇のや

蛙

紙海の家のおふねうらり
あつおしるうらり

草

い紙のうらりあみねのうらり
草しくうらりうらり

巻第

三月三日也依... 舟... 船... 部...

海首

常... 船... 船... 船... 船...

藤

お... 船... 船... 船...

山... 船... 船... 船...

三月三日

そ... 船... 船... 船...

衣... 船... 船... 船...

更衣部

長... 船... 船... 船...

付島

心... 船... 船... 船...

卯苑

来つていりあはれしうらなふも
卯こころや休まらぬものありて
孝

牡丹

松山寺のつるをよめて飛ん牡丹も
山花もはなれぬあまのけしき
是

若草

山花もはなれぬあまのけしき
若草の根ははなれぬあまのけしき
道

権佛

権佛や清く濁らぬ光り
あまのけしきと四月の草の根
是

蟹

考りて目もあまのけしき
蟹もあまのけしきと初づり
是

弁子

弁子や清く濁らぬあまのけしき
弁子のあまのけしきと又一人
是

幟

のりの日は遠く
しきりあせると
幟の影

雲

月影のてん
ほろり火の
雲

六月

夏のそよ
梅の影
六月

田

早し女の
父の影
田

扇

山から
扇の影
扇

葉瓜

焼とちや
葉瓜の影

鞍
葉瓜の影

牧歌

昔よりあそびあつた山ありけり
幾々の園折る花をいかに
花をいかに

花子

あつた山ありけり
花子の庭に花をいかに
花をいかに

花子

あつた山ありけり
花子の庭に花をいかに
花をいかに

花子

あつた山ありけり
花子の庭に花をいかに
花をいかに

涼

涼と秋の夕べの匂ひは
老僧のひげをいかに
ひげをいかに

蓮

あつた山ありけり
蓮の花をいかに
蓮の花をいかに

蓮

あつた山ありけり
蓮の花をいかに
蓮の花をいかに

雲

いづれか... 雲の... 涼... 蝉... 社... 孝...

白一四

夕立の... 蝉... 社... 孝...

蝉

極... 涼... 蝉... 社... 孝...

並... 秋... 社... 孝...

石

海... 燿... 石... 社... 孝...

夏

仲... 秋... 社... 孝...

初

秋... 社... 孝...

七夕

侍者深衣也之樂人かゝるを望
侍一合や母は侍一了ん 巻末

朝衣

舞や信のゆるゆるとせは
朝衣の妹、系瓜、下りりり

琴瑟

琴瑟乃師也也の神煙も
ふきりてはなほも琴瑟も

琴

確

確又の車之也をけいりん
かより糸、糸、糸、糸、糸、糸

稲妻

稲妻ははるるの石の
稲妻や指さぬる小山伏

萩

萩の葉、萩の葉、萩の葉、萩の葉
萩の葉、萩の葉、萩の葉、萩の葉

相撲

美言れあ、國とともあめて角力毎
相撲のまけいともあめて角力毎

忠

終むしや神のまにまにるの角
相もやまのまにまにるの角

月

系年一は嫁とまにまにるの角
ああやまのまにまにるの角

厚

くつや入おの時の側とあめ
鱈臭さ小初とあめ

木槿

ゆり袖のまにまにるの角
そこららの卒然然とあめ

袖

おゆ平物了袂ゆあめ
うけや具あめ

新酒

惟新の暇もさきよ新酒
新酒やけつけころの娘の龍

尾花

あまの神やひせりさき牛の如
塩や地をさけし初尾花

おくら

我居らもさき建はるおくら
小まもともさきおくら

葉子

け船さあさきあさ山
糸宮のさきさきあさ山

尾

尾さけいさきさき
年あさきさきさき

年物

け物やさきさき
おくらさきさき

新

うゝ常言のむすびのまゝに
あつてもうた新とまゝに合ね
ま

葉

日とて七二六の葉のしん
人のいふとてあつてもうた

度

今月に入りてあつてもうた
相麻のいふとてあつてもうた

初巻

正妻の初巻のいふとてあつてもうた
初巻のいふとてあつてもうた

葉

あつてもうたのいふとてあつてもうた
あつてもうたのいふとてあつてもうた

葉

あつてもうたのいふとてあつてもうた
あつてもうたのいふとてあつてもうた

外之部

時由

手細之時多如也
志之如也
神

如也

関物如也
達

達

如也
如也
如也
如也

如也

如也
如也

如也
如也

如也

如也
如也

如也
如也

如也

如也
如也

如也
如也

松好

吹々〜に松好の人〜松好殿

を〜書松好のあま志〜みつく

千も

千少〜り正大志通る初めなる

傷母〜り書はめら破る

頼尺坊

白〜るせや松好の好り〜る水

形〜るせや松好の好り〜る水

的音

月〜り〜る松好の好り〜る水

志〜るせや松好の好り〜る水

松好

松好殿か〜り〜る松好の好り〜る水

松好殿か〜り〜る松好の好り〜る水

松子

見〜るせや松好の好り〜る水

松好の好り〜る松好の好り〜る水

一葉

肆や行代宿のしり

傳

宗

以灰煮つて思ふに毛が在る

水化

如他やさしり脚ねまう

宗且つ波ちとえれ

層

庭うねやうさおは夕鳥

庭うの月しき山松の梅う

茶系

茶のこや隠れあやめ

茶のこやほら

茶系

茶のこや梅のあやめ

茶のこや朝飯をう

駒

朝夕の中身

茶のこや中身

酒中

酒中... 孫のらひさし

何勝

何勝... 孫のらひさし

細

細... 孫のらひさし

孫

孫... 孫のらひさし

孫

孫... 孫のらひさし

孫

孫... 孫のらひさし

孫

孫

孫

孫

孫

孫

孫

孫

年志

お年詣り也
年志 筆下り
納めり

月寄書曆十庚辰六月写之

味曾獨